

氏名 橋 本 俊 明

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1257 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和56年12月31日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者

(学位規則第5条第2項該当)

学 位 論 文 題 目 消化器癌患者末梢血細胞のNK活性とADCC活性の検討

論 文 審 査 委 員 教授 木村郁郎 教授 寺本 滋 教授 小川勝士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腫瘍に対する免疫監視機構における，NK cell 及びK cellの役割を検討するため，消化器癌患者，良性疾患々者，健常者につき，末梢血NK活性，ADCC活性，IgG-Fc receptor 陽性T cell の割合を測定した。

健常者においては，末梢血細胞のNK活性，ADCC活性は高い相関性と示した。これに対し，癌患者においては，NK活性は，stage I においてすでに健常者に対し有意の低下を示し，さらに stage の進行とともに若干低下し，ADCC活性は，stage I において，健常者に比し，低下するものの，stage の進行とともに上昇する傾向を示し，両者は異なる傾向を示した。

また，IgG-Fc receptor 陽性T cell は，ADCC活性との間にのみ高い相関性を示した。この様に，健常者においては，NK cell とK cell とは極めて類似した subgroup に属するものと思われるが，担癌状態においては，多少その性格を異にすると考えられた。これ等の細胞はまた，腫瘍に対する免疫監視機構において，特に発癌過程に際し，重要な役割をはたしていると思われた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は消化器癌患者末梢血細胞のNK活性とADCC活性の検討について臨床的に研究したものであるが，従来十分確立されていなかった癌患者におけるこれら活性値中でも癌発生初期における変化として特にNK活性の低下について重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位をうる資格があると認める。